

## 残薬調査における『おくすり回収袋』の有効性

医療法人衆和会 長崎腎病院

中島さゆり 山下万紀子 小川瑛里 川口利江 川口 唯 川内リカ 畑本明子 吉野秀章 池田康平 小嶺真耶 矢野未来 江藤りか 原田孝司 船越哲

### 【目的】

患者の残薬を確認することで薬の飲み忘れや自己調節などの内服状況が把握できると考えられる。そこで、残薬調査のため『おくすり回収袋』の配布、回収を行った。

### 【方法】

外来透析患者に『おくすり回収袋』を渡し、自宅にある残薬を持参してもらった。内容を確認し、残薬が多い患者に対しては聞き取りや処方変更の提案を行った。また、患者へ透析関連の薬剤の内服状況の聞き取り調査を行った。

### 【結果】

平成26年12月から平成27年9月までに322名へ『おくすり回収袋』を配布し、215名から返却があった。残薬の総額は約340万円であり、金額ベースでリン吸着薬やシナカルセト塩酸塩、降圧薬の残薬が多かった。残薬の多い患者では不要な薬剤や飲み忘れの多い薬剤の中止等の変更を行った。聞き取り調査ではリン吸着薬や下剤、カリウム吸着薬の内服率が低かった。

### 【考察】

『おくすり回収袋』を用いることで服薬アドヒアランスを把握し、個々に合わせた処方提案を行うことで、アドヒアランスの向上と医療費削減につながると考えられる。特に返却の多かったリン吸着薬は、患者の服用しやすい剤形の選択や食生活に配慮した処方の変更が求められる。